

**ONKYO.**

A decorative graphic consisting of several overlapping, wavy blue lines that flow from left to right across the middle of the page. The lines vary in opacity and color, creating a sense of movement and depth.

**第 1 四半期**  
**～2018年3月期 第 1 四半期決算ハイライト～**

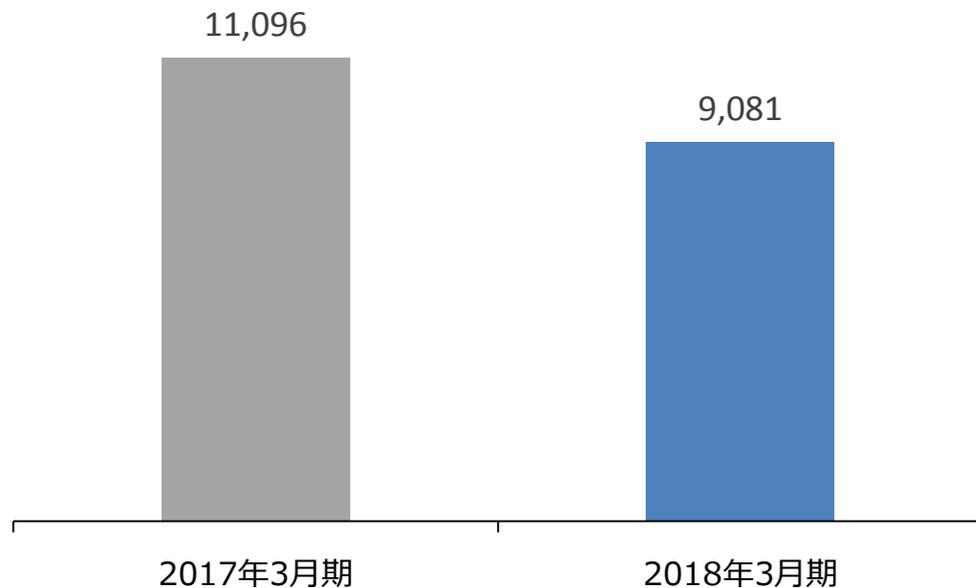
**2017/8/10**  
**オンキヨー株式会社**

## 2018年3月期 第1四半期 トピックス

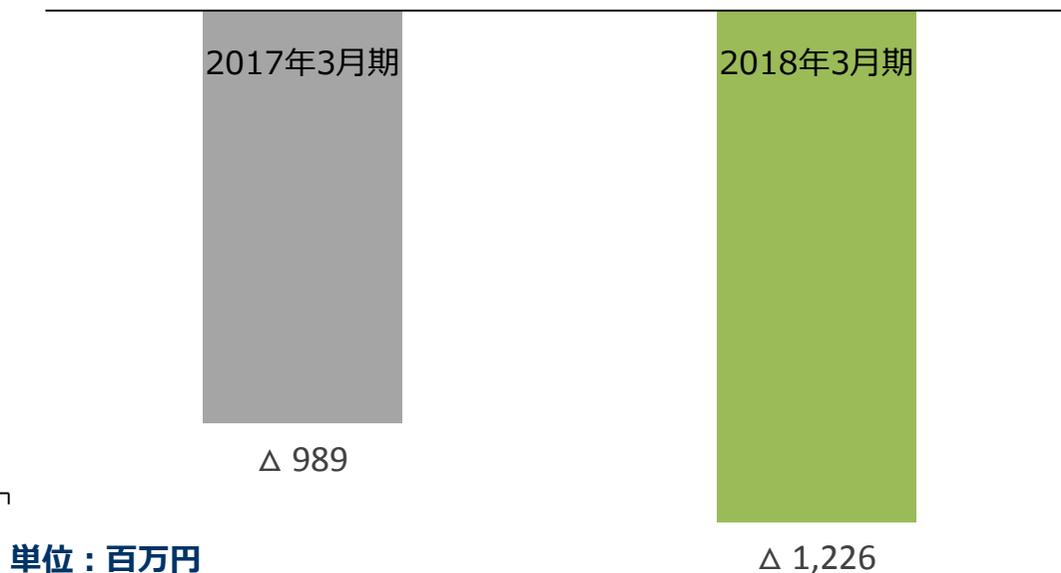
- AIにつながる「進化するエコシステム」構築へ向けた積極的な新製品開発・投資を実施
  - ホームAV事業においては不採算モデルの見直しを継続的に実施
- ⇒ 通期での利益確保に向けた足場固めの第1四半期

# 第1四半期の概況

## 第1四半期 売上高

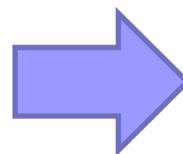


## 第1四半期 営業損益



## 減収減益の主な要因

- ・ 不採算モデルの販売見直しによる機種絞り込み
- ・ 欧州のオーディオ市場の悪化
- ・ スマートスピーカーを中心とした研究開発費の上昇
- ・ プロモーション費用の増加

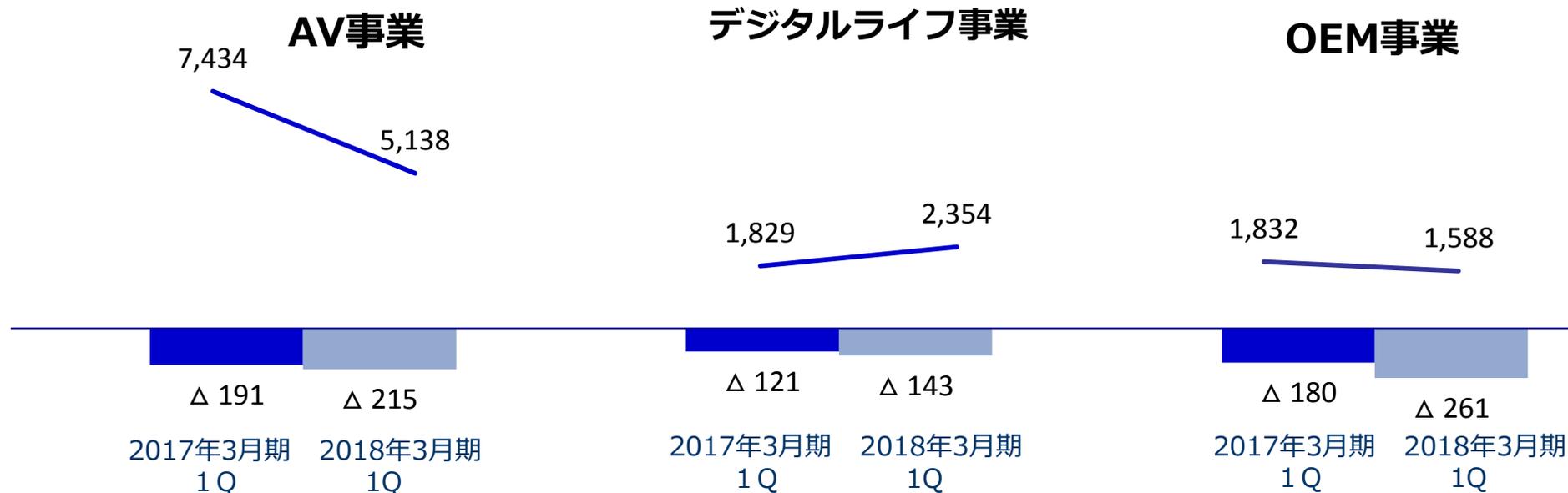


厳しい外部環境においても、  
今後の成長へ繋げる投資を  
実行

## セグメント状況

全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費用）605百万円上記セグメント利益には含まれておりません。

— 売上高  
■ セグメント損益



## ■ AV事業

北米における販売は好調であったが、不採算モデルの販売見直しによる機種ごとの絞り込み、欧州での販売不振より、売上は減少。但し、損益については統合によるシナジー効果も継続しており前年より微減にとどまる。

## ■ デジタルライフ事業

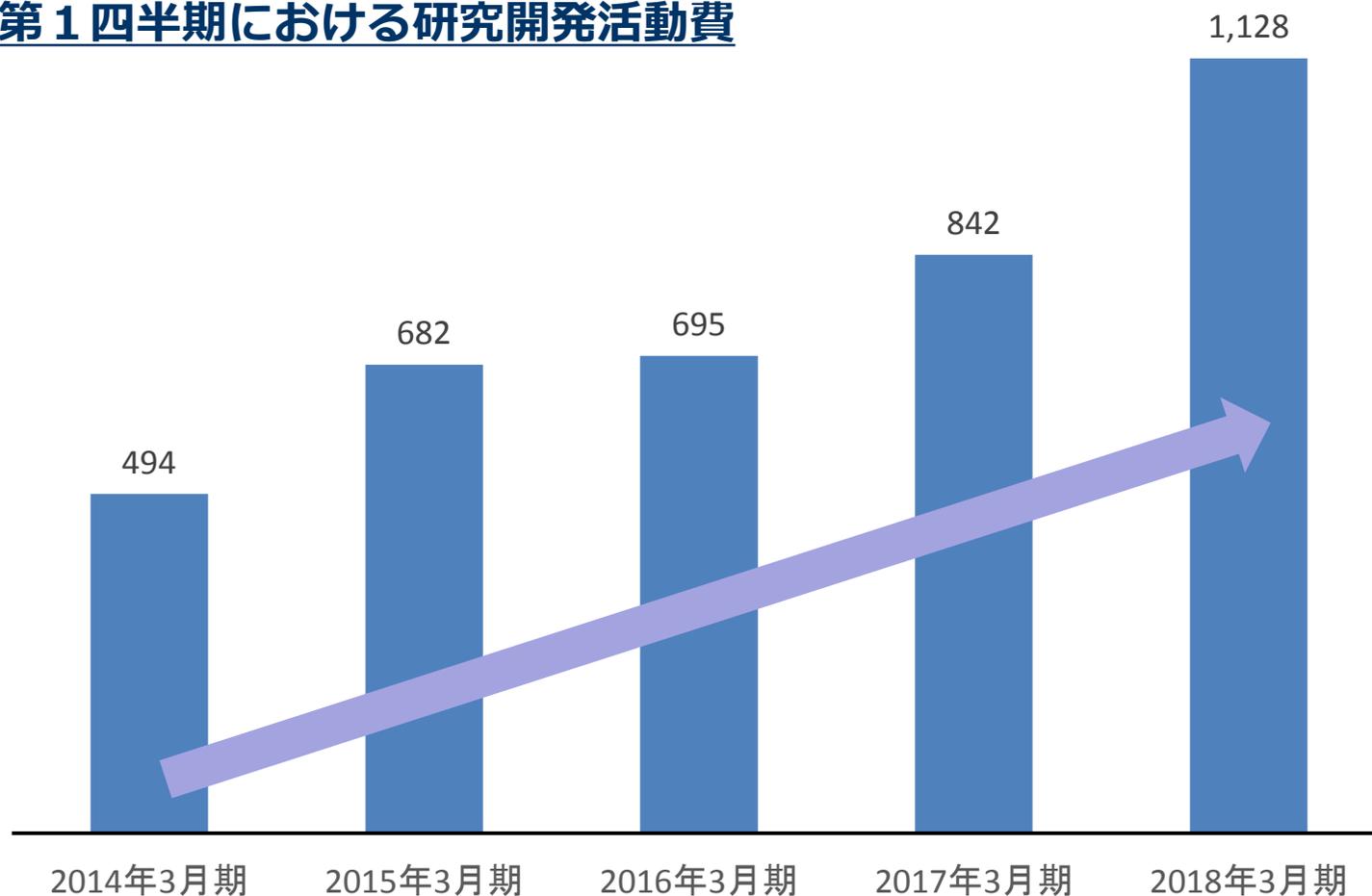
ハイレゾスマートフォン、ポータブルデジタルオーディオプレーヤーの販売伸長に加え、iPhoneに対応したRAYZシリーズの販売開始により増収したが、AI関連製品の研究開発費の投資により損益は微減。

## ■ OEM事業

車載用スピーカーは堅調に推移、「Sound by Onkyo」等のブランドを生かした製品展開も好調であったが、環境関連製品の販売減少、次世代ヘッドホン用ドライバー開発への先行投資により減収減益。

# 研究開発費の推移

## 第1四半期における研究開発活動費

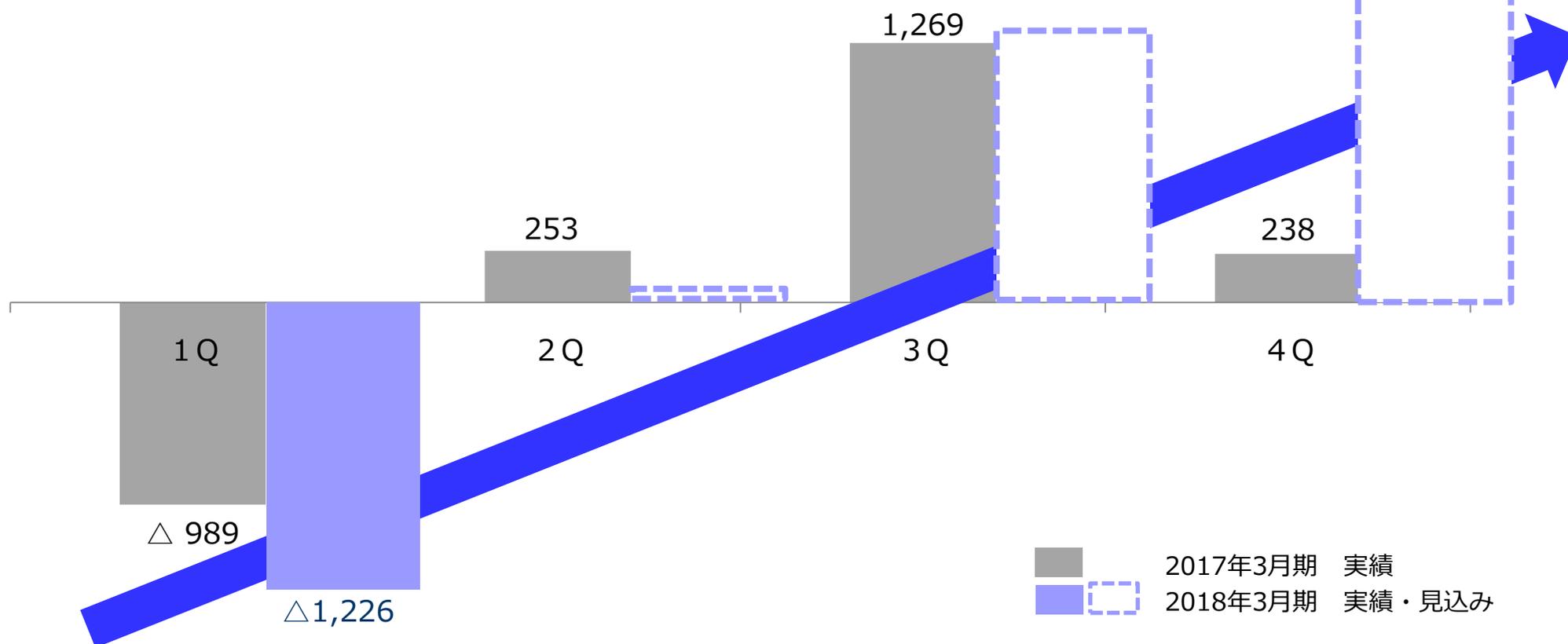


スマートスピーカーの  
各機種の開発を中心に  
積極的な研究開発を実施

単位：百万円

## 2018年3月期 営業損益 推移について

下期（第3四半期以降）にスマートスピーカー、RAYZシリーズをはじめとしたデジタルライフ新製品の発売による収益を見込み、営業損益は当初の業績予想通り14億円の利益とする



単位：百万円

## 成長に向けた取り組みについて（AV事業）

### DTS Play-Fi対応で ネットワーク機器のワイヤレス音楽再生



- ファームウェアの無償アップデートでホームシアターシステムやオーディオ機器がDTS Play-Fiに対応。
- スマホやタブレットの対応アプリを使ってAVレシーバーなどで各種コンテンツをワイヤレスでキャスト可能。ネットワークで連携するAV機器の開発を推進

### 河合楽器との共同開発で誕生した オーディオ技術搭載のプリメインアンプ

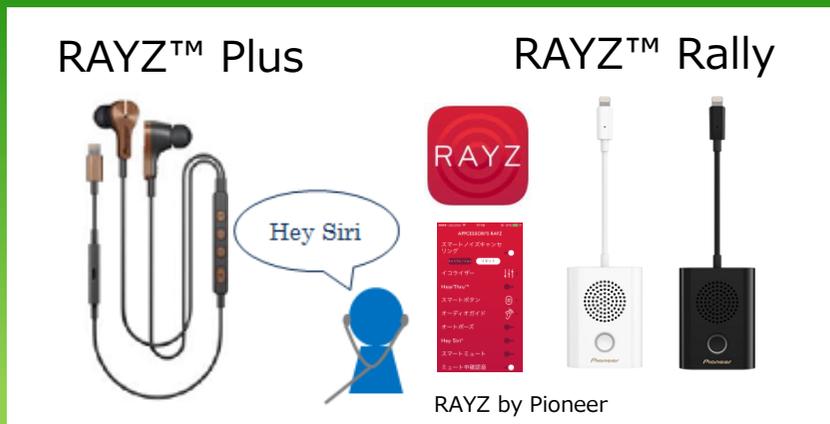


- 河合楽器製作所のハイブリッドデジタルピアノ「NOVUS NV10」の回路技術を活用し当社製品へも展開。他業種との協業による新技術やサービス等を提案



## 成長に向けた取り組みについて（デジタルライフ事業）

### 最新チップ採用Lightning端子対応の アクセサリをグローバル展開&AI対応



- Apple社の第2世代Lightning Audio技術を採用した製品を開発/販売。国内外のアップルストアでグローバル展開。継続して特長ある製品を開発中
- ノイズキャンセリングイヤホンRAYZ Plusは専用アプリケーションの無償アップデートにより、音声で簡単にSiri起動。AI機能を強化

### 人気アーティストやアニメとの コラボレーション製品で売上拡大



- 世界的ブルースギタリスト「B.B.KING」、大人気アニメ「けものフレンズ」とのコラボレーションモデル予約販売開始
- 注目度の高いキャラクターとのコラボレーション製品を限定販売。売上拡大と新規ユーザーの開拓を目指す

©けものフレンズプロジェクト  
※B.B.KING is a registered trademark and is used under license.

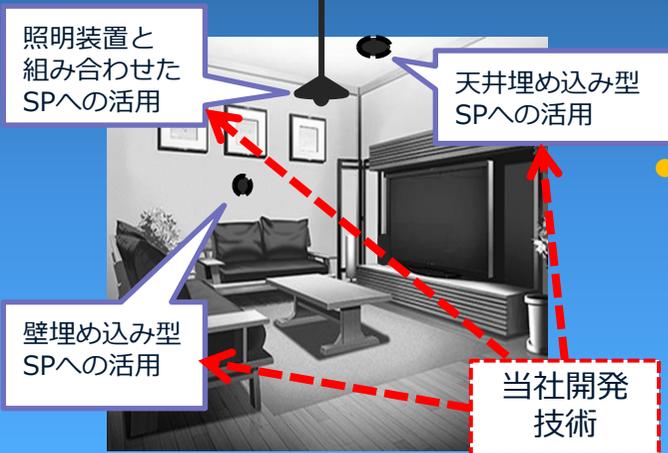
## 成長に向けた取り組みについて (OEM事業)

### 合併事業によるインド工場 本格稼働による事業拡大



- 自動車部品のリーディングカンパニー：UNO MINDA GROUPとの合併事業によるスピーカー生産工場、2017/7～本格稼働
- インド国内 車載用スピーカービジネス受注
  - ・ 大手メーカー純正SP生産開始
  - ・ 市販向けSP受注決定 2018年春より販売予定

### IoT向けスピーカーシステム開発/提案



- 新たな市場である「音声認識 (Voice Assistant) 機能」搭載の製品をターゲットとしたスピーカーシステムの提案を開始

### 加振器による多彩な音楽/音声再生の提案



- 防水性、気密性が必要な空間や、従来型スピーカー搭載が外観上難しい環境下でも音を発生させる事が可能。
- 河合楽器製作所電子ピアノはじめ家電製品や設備関連に採用予定

# AI対応スマートスピーカーの開発

Amazon Alexaを皮切りに各種AIエンジンにも対応へ  
高品位な音楽再生はじめ多彩な機器を音声で操作、新しいライフスタイルを提案します



**AI対応スマートスピーカー**  
第1弾:Amazon Alexa対応スピーカー(VC-FLX1)9月末発売予定  
第2弾:Amazon Alexa & DTS Play-Fiも搭載した  
新高音質スマートスピーカー10月末発売予定

# ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第2四半期、第3四半期、第4四半期の見込値は、当該四半期累計期間値または通期業績見込値から前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第2四半期、第3四半期、第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。